所属：久留米工業高等専門学校 一般科目（文科系）

研究タイトル：

日本人英語学習者に適した英語教育とは

氏名：	徳永　美紀／TOKUNAGA Miki	E-mail:	miki-tokunaga@kurume-nct.ac.jp
職名：	教授	学位：	M.A.（英語教育学）
所属学会・協会：	全国語学教育学会 (JALT) 大学英語教育学会 (JACET)		

キーワード：	外国語としての英語教育、知識とスキル、Skill Acquisition Theory
技術相談 提供可能技術：	

研究内容：学習と練習、知識とスキルの関係

グローバル教育，グローバル人材などという言葉があふれ，就学前から英語を学ぶ子供が増える中，「ゆとり教育」や 18 歳人口の低下による受験の多様化，さらにはコミュニケーション偏重による文法軽視により，一般的な日本人英語学習者の英語力は低下傾向にある．

「学ぶ事」よりも「使う事」，「正確さ」よりも「流暢さ」が重視される中，日本人の英語でのコミュニケーション能力が伸びたのであれば，それは良い傾向である．しかし，実際はどうであろうか．これまで大学で英語を教えてきて感じたのは，英語が好きな学生のコミュニケーション力は多少上がっているが，正確さに欠けるケースが多いということである．そして英語が苦手な学生にいたっては，コミュニケーションどころか基礎的な単語や文法もしっかり理解できないまま大学生になっているケースが多い．「日本人は英語の読み書きはできるが話せない」と言われた時代と比べ，読み書きのレベルは下がり，力が入れられているはずのコミュニケーション力も全体的には伸びていないというのが現状である．

言語習得はスポーツと同じで，基礎体力をつけ，ルールを学んでから練習を繰り返すことで上達する．そして練習をしながら新しい戦略方やテクニックを学んでいく必要がある．「会話は好きだけど文法は嫌い」，「文法なんて気にしなくても通じる」，「TOEIC が高得点でも英語が話せない人がいる」など，正確さは必要ないとする意見もある．海外旅行でのサバイバル英語が目標であれば，確かに文法は気にしなくてもよいであろう．ただ，コミュニケーションの道具としての英語を使いこなし，海外を相手に仕事や研究発表，共同研究を行う，海外で事業を展開する，といった目標を達成するには，正確さも重要である．留学やビジネスの場で英語がつたないという理由で「馬鹿にされる」「同等に扱ってもらえない」という経験をした人は少なくない．

大学生を対象に，英語の文法テストと短文の日英翻訳や絵描写テストを実施した結果，間接疑問文や関係節など複雑な文法だけでなく，複数のＳや否定文の作り方，冠詞といった基本文法が定着していない学生が多いことがわかった．さらに，知識の定着していない文法事項は作文でも口頭でも使用できないという事も明らかになった．「文法がわからなくても使えればよい」という意見はサポートできない結果である．

日本のように普段の生活で英語を使う機会がほとんどない環境では，限られた機会を無駄にしない為にも，まず基礎を学び，定着させる事が大切である．「学ぶ事は面白くない，役に立たない」「学ぶより使う事が大事」という近年の英語教育の動きの中で，「学ぶ」と「練習する」を繰り返すことで「使う」に繋がるという考え方を広めていきたいという思いで研究を行ってきた．今後は，まず高専の学生達の英語力や英語学習におけるニーズを把握し，高専の学生の目標に合った英語教育につながる研究を行っていきたい．

提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）	